

No.130  
2000.  
7.31

# 岐阜の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111  
振替名古屋637909

## 感動は人生を豊かにする

名和昆虫博物館館長 名和秀雄



最近、クワガタムシを1千万円で売ったとか買ったとか馬鹿馬鹿しいことが話題になったし、自動販売機でカブトムシを売ることについて、テレビや新聞で取り上げられ、私もいろいろ見解を求めら

れた、法外な値段が批判されたのか、箆からおじさんが出して売るのはいいが、自販機からピュコンと出てくるのは生命を単なる品物のように扱うという手段がいけないのか？ かつては母親の手づくりだったおにぎりは現在ではコンビニで買うものになってしまっている。時代の流れと言えばそれまでであるが、クワガタムシやカブトムシを何処でどう売ろうと買おうと文句を言うことはない現状になってしまっている。考えてみると、いやな世の中になってしまったものである、一抹の淋しさを感じる昨今である。

私は子どもの頃、東京の荒川の土手で 夏の暑い日 父親とバツを摘まえに行き 王子の駅近くの小さな茶店で 飲んだラムネの味と ふと見た竹箆の聞からのぞいていたトノサマバツの当惑したような顔を妙に忘れることがないのです。また近くの原っぱで 低く飛んで来たオニヤンマを帽子でふせた時の嬉しさと、次の瞬間、雑草と帽子の隙間から逃げていった後姿と、カサコソという羽音を50年以上経た今でもその悔しきは鮮明に思い出されるのです。

こんな幸せをたくさん体験してきたのです。この時の感動が現在の仕事つまり昆虫博物館の館長を続け、自然の面白さ、大切さを痛感し、自然を楽しんで生きて来たのです。もちろん

自然環境の保護に力を入れている遠因にもなっていると思うのです。お寺や神社の木、雑木林でカブトムシを見つけたときの胸が躍るような喜びや、また一日野山を歩いても1びきも見つけれないときの残念さ、朝早くから林をさまよったり懐中電灯をたよりに暗い森を歩きまわった体験を 飛びこしてしまい 唯 ものを手に入ればよいという安易な時代になったことに空しさを感じるのです。ある山間の小学校の校長室にこんな額がありました。

「動く虫に 泳ぐ魚に目をみはり、  
驚きの声を上げ  
花のいのちを自らの心として語る  
日日の新しい体験の重なりを通して  
その生命はすくすくのびていく」

感動は人生を大きく豊かにするものです。

表彰嫌いの私が今回、国務大臣環境庁長官賞を心よく受けたのも、こんな感動をなるべく多くの人たちに伝えたいとの願いの裏付けとして、大きな助けとなるからと思ったからなのです。

どうせ博物館なんていうものは儲かるものではないのだから楽しみながら経営しなければ人生損をすることとなる。小学生の頃から学んだ落語が身につけているのが幸いして、私の話は面白いといわれています。そうなんです。こちらが面白がって話をしているからなのです。昆虫博物館の友の会も昆虫楽会と名付けて楽しみながら、いろいろな体験をして、面白い発見をしたり、不思議なことに感動したり、昆虫という人気者を通して興味を持ち、自然の大切さを悟っていくことを念じ博物館の展示にも野外指導にも講演にもそれを心がけているのです。

## 「戦場が関ヶ原になったのはなぜか」

日時：平成12年7月2日（日） 13:30～16:10

会場：関ヶ原ふれあいセンター小ホール 参加者数：227人

講師：第1部 基調講演	静岡大学教育学部長	小和田哲男氏
第2部 歴史トーク関ヶ原	静岡大学教育学部長	小和田哲男氏
	県歴史資料保存協会名誉会長	太田 三郎氏
	県史専門調査員	清水 進氏
	コーディネーター	田原 慈朗氏



講師 小和田氏

第1部の基調講演「戦場が関ヶ原になったのはなぜか」は、次の順序で話を進められました。

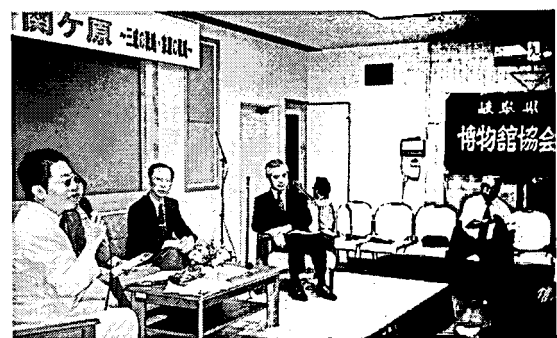
1. 戦国時代の主要な合戦150例を分析すると、遭遇戦では原野と河原が戦場に選ばれている例が大変多い。
2. 戦場は木曾川をはさんで対峙した可能性もあり、その時々的情勢で変わっていくものであった。南宮山に構えた毛利・吉川勢の陣は、大垣を向いている。石田三成の頭の中には大垣城での攻防があったのではないか。
3. 家康は城攻めが苦手であった。「攻者3倍の法則」といわれるものがあって大垣城に籠城する西軍を攻めることは避けたかった。また元龜3年（1572）の三方ヶ原に進軍して武田軍に大敗してしまった経験を生かして関ヶ原を戦場に選んだのではないか。
4. 大谷吉継の布陣や松尾山を城塞化していることから考えて、三成自身も関ヶ原を第2段階の防衛線として予想していたと考えられる。

以上のような内容でありましたが、関ヶ原の合戦といった場合単に9月15日の一日を

とらえるのではなく、前後のあちこちのまたいくつかの合戦も含めて考えていくことが関ヶ原が戦場になった理由を探るのに大切であることを痛感しました。

第2部の歴史トークは、会場からの用紙での質問事項を取り上げながら進められました。「関ヶ原合戦のときの民衆の対応はどのようであったのか」「南宮さんは、いつだれによって焼かれたのか」「この戦いに関係して更に取り上げたい人物はだれか」といったいくつかの問題が提起されました。コーディネーターの田原慈朗氏の臨機応変の司会のもと、地元の太田三郎氏、清水進氏の具体的かつ資料を駆使しての主張や解答に、会場内の参加者も大いに沸き魅了されました。

心情として西軍に応援する参加者が多いのか、「もしも…三成が大垣城から出なかったら」とか「もしも…秀頼か毛利輝元が関ヶ原に出陣していたら」という話も出て、大衆的な雰囲気もかもし出され面白い一刻ともなりました。



参加申込者は100人ほどでありましたが、当日の出席者が230人近くになり、途中で前後に椅子を並べて席を増やすほどでした。

そして当協会理事の片野知二氏の感謝のことばで無事散会となりました。

（機関紙委員 海津町歴史民俗資料館 瀬古尹宏）

第46回岐阜県博物館協会会員研修会報告

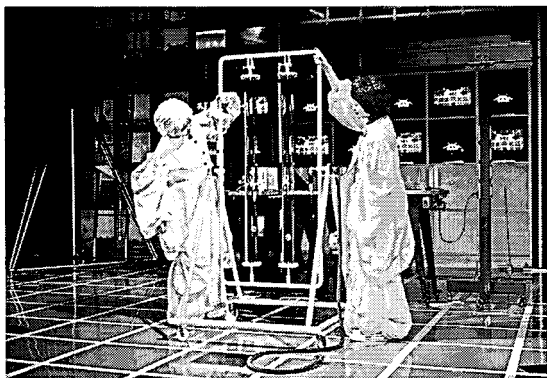
## 「体験学習を重視した博物館活動について」

日時：平成12年6月14日（水） 12:50～16:00

会場：サイエンスワールド（岐阜県先端科学技術体験センター）  
瑞浪市化石博物館

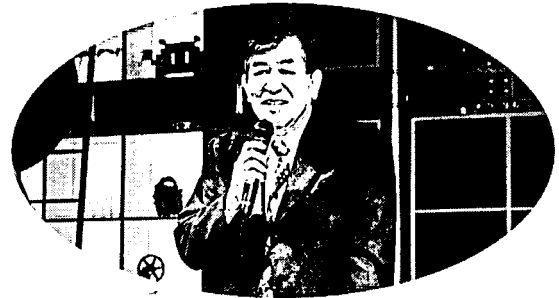
第46回会員研修会がサイエンスワールド（正式には岐阜県先端科学技術体験センター）および瑞浪市化石博物館で開催されました。

今回の研修テーマが「体験学習を重視した博物館活動」ということもあり、研修はいきなりサイエンスワールドのサイエンスショー見学から始まりました。このショーは1時間ほどの上演で、平日は1日に2回、土日等は3回催されています。プログラムは6種類あり、この日は「天才のひらめきと身近な科学」を見学しました。宇宙の果てからやってきた偉大な科学者ラクウェル博士が地球人の科学嫌いを無くそうと、助手とともに地球のテレビ放送を電波ジャックした、という設定のもと、博士たちの分身であるカオスとコスモスの2人に自由落下や慣性の法則などについて実験をさせ、観客とともに実験を楽しむ内容でした。音の鳴るボールを舞台と客席でキャッチボールしながらドップラー効果の実験をしたり、舞台での実験に客席の子供がお手伝いに加わったりします。お手伝いに加わった男の子は恥ずかしそうにしながらも実験を楽しんだ様子でした。



次にサイエンスワールドの館長・飯尾正和氏から「サイエンスワールドの活動」という演題で講演していただきました。同館では来館者1人ひとりが実際に実験や工作を行うことができるよう、館内にワークショップを設けスタッフを配置する以外に、遠隔地の学校

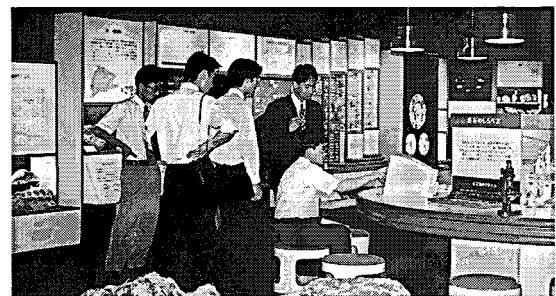
へ出かけて行き実験をする「出前型実験講座」や、市民公開講座なども実施してみえます。かたちを決めず、時代とともに前進して行くミュージアムを志していらっしゃるとのことでした。



飯尾正和氏

次に瑞浪市化石博物館学芸員の柄沢宏明氏から「瑞浪市化石博物館の資料検索システム（古生物データベース）」についてお話していただきました。同館では3年の準備期間を経て平成11年度に同システムを導入されました。データの入力については初めの1091点は外注に出しましたが以降はサイエンスボランティアを募って入力して行く計画で、年間3000点を目標に、最終的には約2万点を登録する予定とのことでした。同館のホームページ <http://www2.city.mizunami.gifu.jp/index.html> から同システムにアクセスできます。

最後に瑞浪市化石博物館を見学しました。展示室のほぼ中央に位置するテーブルには偏光顕微鏡などと並んでディスプレイが設置されていて、先の検索のほか画面の中で化石のクリーニングも体験できます。会員の皆さんも楽しそうに画面に見入っていました。

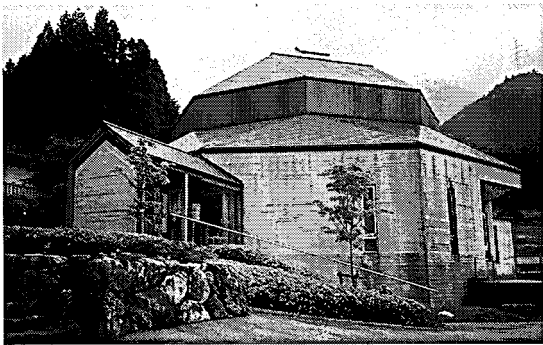


（土岐市埋蔵文化財センター 諏訪洋子）

## 円空記念館

〒501-2804 武儀郡洞戸村奥洞戸1212  
TEL (058158) 2814

板取川沿いを走る国道256号線を北上すると、右手に円空記念館の看板が目に入ります。そこで橋を渡り、高賀川添いをさかのぼると、標高1224mの高賀山の麓、高賀神社に至ります。円空記念館はそのすぐ手前にあります。



円空記念館外観

高賀山は古くから白山に並ぶ山岳信仰の聖地として信仰を集めてきました。ノミと鉋を用いた独特の彫刻で知られる遊行僧・円空も生涯に3度この高賀山を訪れており、高賀神社に奉納した狛犬や仏像をはじめ、全国を行脚した際に使った錫杖や硯、歌集など数々の遺品をこの地に残しました。明治初期の神仏分離の際に仏像の多くは高賀神社から蓮華峯寺に移され、以後地元の人々の手で大切に護られてきましたが、円空の没後300年を記念して円空にまつわるこれらの資料を保存、展示する施設として円空記念館が平成7年7月7日にオープンしました。

記念館に入るとまず旅姿の円空が迎えます。続いて全国に残る円空仏を紹介する写真パネルや洞戸村の文化財、洞戸小学校の児童が夏休みに作った円空彫りの作品が並ぶ廊下を通過して展示コーナーに入ります。展示コーナーは立木に鉋をふるって仏像を彫る円空を中央に配し、それを囲むようにして30体余の円空



展示コーナー

仏や雨乞祈願をしたことを記した懸仏などが展示されています。中でも3体が一本の木から作られている善女龍王・善財童子（ともに全長175cmほど）・十一面観音像（全長221.2cm）は、その大きさだけでなく作風のすばらしさからも円空晩年の代表作にあげられている作品です。

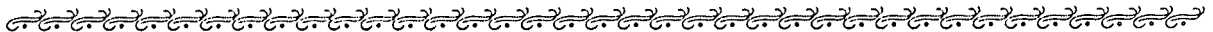
館内は壁から天井、階段に至るまで杉・桧材が用いられており、展示されている円空仏と相まって落ち着いた雰囲気を味わうことができます。



洞戸小学校児童の円空彫り

- 【交通】 岐阜乗合バス 板取スイス村行  
「高賀口」下車、徒歩40分
- 【駐車場】 周辺に50台ほど（無料）
- 【開館時間】 9：00～17：00  
（入館は16：30まで）
- 【休館日】 火曜日（祝日の場合はその翌日）  
祝日の翌日
- 【入館料】 大人（高校生以上）300円  
小・中学生 150円

（機関紙委員 岐阜市歴史博物館 稲川由利子）



- ・本年度改正されました協会規約の全文を別途掲載しました。ご覧ください。
- ・機関紙余白に会員施設の企画展示の開催案内を随時掲載したいと思っております。掲載希望がありましたら、企画展名、開催期間、施設名、電話番号を事務局までお知らせ下さい。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。